

## 令和3年度第3回富山県技術専門学院見直し検討部会 議事要旨

日時 令和4年1月31日(月)  
午前10時～11時30分  
場所 富山県民会館302号室

## ○出席者（委員6名、オブザーバー2名）

＜労働者代表委員＞ 長委員、森川委員

＜事業主代表委員＞ 東出委員

＜学識経験者委員＞ 岩本委員、中村委員、能登委員

＜オブザーバー＞ 相楽オブザーバー、清水オブザーバー

## 1 開 会

## 2 富山県商工労働部次長挨拶

本日、技術専門学院の見直し検討部会ということで開催しましたところ、御多忙のところ、またお足元の悪い中、御出席をいただきましてありがとうございます。

本部会につきましては、技術専門学院の科目の見直しということでございまして、本日は3回目を迎えております。

前回第2回は9月に開催いたしまして、学院の訓練ニーズの調査票の案について委員の皆様から御意見をいただいたところでございまして、その後、その御意見を反映いたしまして、11月から12月にかけて県で調査を実施させていただいたところでございます。

ニーズ調査につきましてはまだ最終的な調査の集計中でございますけれども、本日は速報ということで結果がまとまっておりますので、そのニーズ調査の速報結果を踏まえまして、訓練科目の見直しの方向性についてたたき台ということで提示させていただきたいと思っております。委員の皆様には、忌憚のない御意見、御質問をいただきまして、その方向性について議論を深めていただきたいと思いますと思っております。

また、できれば年度内にもう一度この部会をして、最終的な見直しの方向性を部会としてまとめさせていただければと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、よろしくお願ひいたします。

- ・ 委員紹介
- ・ 配布資料の確認

## 3 議題

## ●議長

それでは、早速本日の議事に入りたいと思っております。

本日は、事務局にて昨年11月から12月にかけて実施した訓練ニーズ調査を踏まえ、訓練の見直しについて事務局から資料1から4までの説明をお願いいたします。

(1) 協議事項 富山県技術専門学院訓練見直し(案)について

事務局(労働政策課長)より、資料に基づき説明

○資料1 R3技術専門学院訓練科目の見直しスケジュール(案)

資料2 訓練科目の見直しの考え方(案) / 技術専門学院訓練科目見直し後(案)

資料3 学卒者訓練 / 離転職者訓練の見直しの方向性について

資料4 民間委託訓練におけるデジタル人材の育成についての説明

それでは、お手元の資料1から順に御説明をいたします。

まず資料1ですが、前回のスケジュールと特段変更している箇所はございません。今回は1月第3回の検討部会で見直し(案)の提示をさせていただきまして、3月に第4回検討部会で方向性を固める。その後、親会である職業能力開発審議会にて御審議をいただくという流れになっています。

続きまして、資料2と資料3がございますが、資料2-1は資料3-1の概要版という形ですので、資料2-1と資料3-1を並べながら御覧いただけたらと思っております。

資料2-1ですが、一番左に現行のカリキュラムの中身、真ん中に見直しの方向性と、一番右側に再編後のこう変わるというものが書いています。

資料2-2は、学校ごとにこのように見直し後に変わりますというものをまとめたものです。

それでは、資料2-1と資料3-1を合わせながら説明いたします。

まず、資料2-1の一番上の学卒者でございます。こちらは資料3-1の1枚目と2枚目を御覧いただければと思います。

まず資料3-1の一番上、自動車整備科でございます。

こちらは現状と課題にあるとおり、現状の入学率は高いと。就職率も高いというところで、特段の大きな課題はないのかなと考えております。

真ん中にニーズ調査の速報値を載せておまして、右側に見直しの方向性の案を載せております。これは全て後ろの資料も同様の構造になっています。

ニーズ調査ですが、事業者(全事業所)向けに聞いた質問で、不足している年齢層・職種というのは、若年層が8割強、技能職で5割5分ぐらいと。

この参考と書いてあるのはニーズ調査とは別の情報になりますけれども、全国的な傾向として、整備士は全国的に不足している傾向がございます。

また、受講生に聞いたニーズ調査、高校生向けですが、進学先として興味がある学科としては、3つ科がありますが、その中で真ん中の13.8%の方が興味があるとされています。また、広報媒体は何が効果的かと聞いたところ、各種SNSが上位に挙がっております。

こうしたことを踏まえて、見直しの方向性、一番右側ですが、現状では特に課題はないかなというところで、基本、現行のまま継続したいと考えております。

ただ、下の見直し内容というところで、今は自動運転ですとかEV化といったトレンドもございますので、県内ディーラーのニーズや国の動向を踏まえて、自動運転やEV化についての講習会ですとか、あるいはEVの教材車両の導入といった見直しをしていきたいと。

また広報活動としまして、既に行っているものとしてはホームページ、パンフレット、高校向けの説明会等をやっていますが、SNSや動画の活用あるいは保護者見学会等の新たな広報活動も行っていきたいと考えております。こちらは、メカトロニクスですとか電子情報科、次の2つ

の科についても広報については同様の対応で考えております。

続きましてメカトロニクス科、資料3-1の下半分でございます。

こちらの入学率は約7割程度、就職率については97%ということで非常に高いんですが、入学率が少し下がってきている傾向です。

こちらの事業者向けのニーズ調査、不足している年齢層が若年層で8割強、技能職で5割5分と、これは先ほどと同じです。

もう一つ事業者向けに聞いたもので、ものづくり系の事業所に聞いたニーズ調査の項目の中で、CAD/CAMを使う業務における人材充足度というのを今回聞いていまして、ここの中で全ての職種、若者から中堅、中高年まで全ての職種で不足しているという回答になっています。

また、その下にあります採用希望年代では、作業員、若手が非常に多くなっているということです。

採用希望学歴は、学歴に関係なくと。技専での育成希望も、全ての職種で希望するという選択が一番高いとなっております。

また、受講生（高校生）向けですが、こちらはDX関連で興味がある内容というのを聞いていまして、プログラミング、AIが2割ほどあり、その次、ロボット・FA技術が11%ほどということで、この3つが比較的上位の内容となっております。

また、進学先として興味がある学科を聞いていますが、3科の中でメカトロは7.2%で一番低いということになっています。

こうした現状、課題と調査結果を踏まえて、右側の考え方ですが、現在、国準抛のカリキュラムでございますが、DX（IoT、AI等）の導入が進む生産現場に対応できるよう、訓練内容を充実すると。また、科名の変更によってイメージの刷新を図ってはどうかと思っています。

具体的には、ロボットを活用した訓練導入によって魅力を高めたいというところです。科名ですが、現在のメカトロニクスというのが、伝統的な科名ではありますが、一見どういう内容か分かりづらいこともあるので、例えば、デジタルものづくり科、機械エンジニア科という2案で考えておりますが、どちらの方がより適切かについても、ぜひ御意見をいただければと思っております。

また訓練内容の充実としまして、工作機械の操作、制御技術の習得というところで、CAD/CAMを核としたデジタル生産システムを活用した訓練。これは現在もう既にやっておりますが、プラスでFA、工場の自動化に対応するための訓練環境の強化、ロボットを活用した製造ライン制御訓練の導入ということを考えております。

続きまして、2ページ目、電子情報科になります。

こちらの現状と課題のところですが、入学率は7割程度ということで、直近少し低下傾向にあります。就職率は99%で非常に高いところがございます。

真ん中、ニーズ調査になりますが、事業者（全事業所）向け、不足している年齢層・職種については、これは先ほどと同じですが、専門技術職が5割ほど不足しているというデータがございます。

また、デジタル人材の充足度についても聞いておりますが、不足しているあるいは今後不足しそふだを含めると、7割5分に上る事業所が不足すると考えているということです。

また、ITベンダー系の事業者に行った質問で、これも人材の充足度で、若手、中堅、管理職、

全ての職種で不足しているとなっています。また採用希望年代は、技術作業員、若手が8割に上るといところです。採用希望学歴ですが、大学卒が5割と一番高いんですが、能力開発校卒も3割、また、学歴関係なく採用も3割といところで、学歴は関係なくといところも比較的高い割合になっています。また技専での育成希望についても、全ての職種で希望するが高いと。技術作業員は6割超といことで、非常に高くなっています。

また、受講生（高校生）側に聞いたものですが、DX関連で興味がある内容、プログラミングやAIが2割近くあります。また、進学先として興味のある学科で、電子情報科は23.9%といことで、3科で最も高くなっています。あれば進学を希望する学科でも情報処理系が17%といことで、比較的高くなっています。

こうした現状、課題、ニーズ調査を踏まえて、見直しの方向性、右側ですが、こちらはある程度柔軟なカリキュラム編成ができるといところもありまして、IoT技術の活用で業務上の問題を解決できる人材を育成するため、訓練内容を充実したいと思っています。

右上に書いていますですが、令和3年、この学科に合格したが辞退した方というのが8名ほどいらっしゃって、他科に比べても少々多いといことで、そういった付加的な魅力をつけたいと考えております。

見直し内容としまして、こちら科名を、例えば電子情報/IoT科と変えてはどうかと思っています。

訓練内容の充実としまして、2年次にIoT技術を活用した実習を導入して、センサー組込みマイコンを活用したデジタル制御ですとか回路組立て実習というものを考えております。イメージとしては、生産現場でIoTを活用して製品を改良・メンテするような技術の習得というイメージです。

また資格としまして、IoT検定、IoTシステム技術検定等も新たに取るように促してはどうかと考えています。

今までの部分が学卒者向けの訓練の見直しの方向性についてでしたが、こちら3ページ以降は離転職者向けの訓練になります。

まず3ページですが、製造・設備分野でございます。

上半分が金属科ですが、現状と課題のところ、一番左でございます。入校率は低く、両科合計で3割少しまで下がっています。在職者訓練として活用されたいという企業もございます。ただ、就職率は8割で、非常に高くなっています。

真ん中、ニーズ調査ですが、こちらは先ほどとかぶる部分がございますが、事業者（全事業所）向けで不足している年齢層・職種で、若手、中堅が高いんですが、技能職がやはり5割5分でございます。

役立つと思う職業訓練コースという問いも聞いていまして、金属加工科は13.7%といことで、各種設定しているコースの中で2番目に高いという結果が出ています。

また、事業者（ものづくり系）で、これは先ほども普通課程のところ、少々言及しましたが、CAD/CAMを使う業務における人材充足度は全ての職種で不足しているといところですし、育成希望も高いと。

ものづくり系向けの質問の一番下の4ポツ目、機械による自動化が困難な作業のある事業所が希望する訓練コースと。こちらは金属加工科が8割、金属ものづくり基礎科で6割超といところ

ろで、やはり手作業というか、機械化できない部分としては、金属分野の訓練ニーズが非常に高くなっています。

また参考としまして、県内訓練校は2施設、ポリテクセンターと技専のみになっています。

こうしたことを踏まえて見直しの方向性、一番右側でございますが、やはり入校率を少々上げる必要があると思っております、若者や女性にも訴求する訓練、広報をやるということ。3Kイメージで敬遠する求職者の間口を広げるというところで、CADを使ったような作図やオペレーションを訓練するコースを新設し、また広報活動も強化したいと思っております。

具体的な中身ですが、金属加工科について、企業実習付は継続しつつ、CAD技能・機械板金技能を新たに加えてはどうかと。また広報面でも、若者、女性向けの見学会や座談会、SNSや動画の活用などを考えております。

ものづくり基礎科（6か月）についても、これも後期でCAD・板金コースを入れてはどうかと考えております。

続きまして3ページの下半分、環境エネルギー設備科になります。

こちらの現状と課題ですが、こちら入校率はやはり低いというところがありまして、直近5年で5割程度と低下傾向にもございます。就職率も7割ぐらいというところですが、少し低下傾向にございます。

真ん中のニーズ調査ですが、こちらは今回、ビルメンテナンスはどうかなということで、ビルメンテナンス業種の方々に色々聞いていまして、まず人材充足度は、清掃員や設備・電気設備ですとかの保守管理ができる技術作業員が不足しているという結果が出ています。採用希望年代として、設備・電気設備の保守点検というのが4割程度。技専での育成希望についても、全職種で希望するが希望しないを上回るというところ。特に設備保守管理は5割程度の事業所さんが希望されています。

また、これは参考情報ですが、ボイラー協会の要望としてビル管理の人材不足というのも挙げられています。

一番下ですが、受講者（求職者）のニーズとしましては、あれば受けてみたいコースでビルメンテナンス関係分野は15.5%と、比較的高い数字かなと思っております。

ただ、技専を知らなかったというのが5割程度で、技専の認知度向上も課題と思っております。

一番右側、見直しの方向性ですが、今まではいわゆる設備の管理というところで、配管・電気をメインでやっておりましたが、女性、中高年の方でも受講を気軽に考えられる、あるいは就職まで考えたときに、少し体への負担が少ないような訓練の導入はどうかと思っております。

学科も再編させていただきまして、長期がどうしても入校率が低い傾向にありますので、長期を廃止して、短期（6か月）を2科体制にしてはどうかと思っております。新たに、体への負担が少ないビル管理の訓練科を新設したいということです。

見直し内容ですが、2科体制で、新設、ビルメンテナンス科を設けて、ビルや施設の保守管理に必要なボイラー技士などの技能の習得。資格としても2級ボイラー技士、第二種電気工事士などを想定しております。やはり広報関係で、女性、中高年向けに見学会、座談会とかをしていこうと思っております。

今までの環境エネルギー設備科の短期は、これも住宅設備科というところで、シンプルにどういう内容をやっている科なのかというのを分かりやすいコース名にしてはどうかと考えておりま

す。

続きまして、資料3-4でございます。

ここから、建設・ものづくりと、2枚後には造園・土木の関係まで入っております。

4ページの上半分、まず木材加工科になります。

こちらの現状と課題は、入校率がこちらでも低く、特に長期が低くなっていて、短期も近年低下しています。就職率は8割程度になっております。

これは再編統合の話もありますので、下のエコ住宅リフォーム科についても同時に御説明しますと、エコ住宅リフォーム科の現状と課題は、入校率がこちらはより低く、52%となっております。ただ、入校者の年代としては比較的若めで、木材加工科よりは若くて、女性の割合もそれなりにあると。ただ、就職率は7割弱で、低下傾向にあると。

今回、この2つの科につきまして再編統合をしたいという具合になっております。

真ん中のニーズ調査ですが、土木・建設系の事業者向けの調査としまして、木材加工科の一番上を御覧いただきたいのですが、人材充足度、全ての職種で土木・建設関係は不足しております。作業員、主任技術者は6割超と、若手が非常に高い不足度になっています。

採用希望年代についても、やはり若手の作業員ですとか、あるいは中堅というところが多いと。技専での育成希望も若手の方は5割超と。

この土木・建設関係でDX関連の質問として、CADなどを使える技術者は不足していますか、足りていますかという質問をしまして、こちらでも導入しているところが66%ほどで、充足度についても不足しているというところが非常に多いです。希望年代としては若手で、育成希望も5割程度あると。

また参考情報として、ハローワークで建築CADを学べるコースの要望というのがございます。

また、下の方で青色の受講者(求職者)の希望としまして、これもハローワーク窓口での声ですが、富山地域に建築を学べるコースの要望がございました。

こういうことを踏まえて、木材加工科とエコ住宅リフォーム科を再編統合しまして、右側、見直しの方向性のところですが、若年者や女性の受講促進、就職幅を広げるために、建設分野あるいは製造でも就職できるという学科に再編してはどうかと思っております。

まず長期(1年)につきまして、こちらは総合建築科としてはどうかと思っております。こちらはエコ住宅リフォーム科の機能を移管して、より汎用性の高く、一般的な建築を学ぶというふうに考えています。木造建築一般と、あとは建築CADもやれる内容になっております。

短期としまして、建築CAD科というのを6か月で考えておりまして、こちらは建築CAD、NC加工機の操作等ございまして、こちらはCADを結構やりますので、そういう意味で製造業への就職なんかも可能になってくるかなと思っております。

続きまして、エコ住宅リフォーム科のあった新川センターについて、こちらの機能を移管するというので、新川センターはそれなりに広い施設になっており、こちらでほかに何かやるべき科目はないかなというところで、下半分のニーズ調査を御覧いただくと、こちらでも再掲のような形になりますが、事業者(ものづくり系)のところ、先ほどのCAD/CAMを使う業務における人材充足度ということで、不足しているという状況もございました。

また、今回、新川センター、あるいは次に出てきますが砺波センターにCADの関連科を設置すべきかどうか聞いています。全事業所、全体で設置すべきが24%と。分からないという

ころも少々多くなっています。これは、全事業所ですと関係ない事業所さんもありますので、こういう結果かなと思っていまして、製造業ですとか建設業に限定してパーセンテージを出しますと、約3割弱程度の割合で設置すべきという結果が出ております。

また、受講者の方に聞いた、あれば受けてみたいコースは、全体でCAD/CAM関連が2割程度ですが、これも製造業ですとか建設業を希望されている方については、2割5分程度まで高まっております。

また、新川、砺波にCAD関連科が設置されたら受講するかという質問もしていまして、全体ですと受講してみたいが23%ほどですが、製造業、建設業を希望されている方に限定すれば3割強の方が受講してみたいという回答をされています。

こうした調査結果を踏まえて、今あるエコ住宅リフォーム科の要素は本校に総合建築科として移すというところで、そちらは廃止をするということですが、短期(6か月)の訓練科でCADクラフト科という科を設けて、こちらでCAD関係全般をやるという訓練科としてはどうかと思っております。建築CADやNC加工機操作等でありまして、木材だけでなく、アルミ、鉄、プラスチックなど様々なものづくりに必要な素材などを加工できる技術者を養成すると。当然のことながら製造業への就職というのも想定されるという中身になります。

1枚おめくりいただきまして、こちらは砺波センターになりまして、こちら先ほど直近で御説明いたしました新川センターと同様の中身で考えていまして、ニーズ調査についてはほとんど再掲のような内容になっておりますので、下半分の事業者の砺波センターにCAD関連科を設置すべきかどうかという部分について、こちら製造業、建設業ですと3割弱の事業者さんが設置すべきと言われていまして、求職者の方についても、あれば受けてみたいコースでCAD/CAM関係が製造業、建設業ですと2割5分ほどと。設置されたら受講するかというところで、受講してみたいが製造業、建設業を希望される方で3割の方が希望されていると。こうした調査結果、ほとんどこれは新川センターと同じような数字ですが、これを踏まえまして、見直しの方向性としまして、短期(6か月)のCADクラフト科、新川センターと同様の科を、今、砺波センターには特色ある訓練科、ものづくり系がないというところもございますので、同様に設置してはどうかと考えております。

続きまして、資料3-6、造園管理科でございます。

こちらの現状と課題の箇所でございますが、入校者が近年低下傾向になっていまして、また、就職率は横ばいですが、これも7割ほどになっております。

ニーズ調査は土木・建設事業者向けの中で造園関係についても質問を設けております。

まず人材充足度で、全ての職種で不足しているという状況が出ていまして、基本的には若手がやはり不足していると。あと、造営管理・施工技術者についても、パーセンテージの絶対値は低いですが、足りているは4.9%、不足しているは12.7%というところで、造園関係が、そもそもそれを手がけている企業さんは土木・建設でも限定されるというところで、絶対値としては低く出ていますが、不足している割合は3倍ほど高くなっております。

採用希望年代ですが、やはり若手の方の希望が多いと。造園管理についても若手が多くなっています。技専での育成希望は、若手は5割超となっておりますが、造園管理・施工技術者は、これもやはり関係ないところも多いので、分からないが2割5分と高いですが、希望すると希望しないで比較すると、希望するのほうは2倍以上高いというところで、基本的には希望されている事業

者さんが多いかなと思っています。

また参考の情報としまして、造園の土木工事に関する技能というのもあったらいいんじゃないかですか、建設 I o T への対応というところで、小型車両系建設機械の操作資格の取得等もあったらどうなのかと。あとは受講者（求職者）側からも、小型車両系建設機械の操作資格というニーズがございます。

これを踏まえて、一番右側、見直しの方向性ですが、地域ニーズを踏まえた訓練というところで、女性や若年者、今はどうしても主な事業者は中高年の方が多いんですが、女性や若年者の方でも造園・土木業へ就職する機会を確保、就職幅も広げる。そのために、建設 I o T（建設機械の情報化）等を見据えた訓練を充実してはどうかというところでございます。

見直し内容としまして、まず科名ですが、今ですと造園の管理という名前で、少しやれる仕事の幅、訓練の幅が狭いように見えますので、エクステリアですとか土木施工、そういったところも実務上はセットになることも多いというところで、造園土木施工科に変更してはどうかと。また、樹木等の管理は今もございますが、新しく造園土木工事に必要な建設機械ですとか測量機器を活用した訓練というのを導入してはどうかと。資格としても、造園技能士の、今は3級ですが、2級や、或いは小型車両系建設機械の特別教育、測量士補ですとか、こういったところまで見据えた目標としたいと思っております。

参考情報としましては、令和3年の8月、夏の入校については、20名（100%）に少し改善はしているという状況もございます。

さらにおめぐりいただきまして、7ページになります。ここからはOA関係、事務関係の科になりまして、これは全部で4科、7ページ、8ページにまたがってございまして、それぞれ本校、新川、砺波で全て実施しております。

まとめて全てについて御説明させていただきますが、まず現状と課題として、入校率はいずれの学校においても非常に高くなってございまして、女性の割合が非常に高いというところなんです。ただ就職率については、特に本校と新川は7割強で、少し低下傾向にありますけれども、8ページ、おめぐりいただきまして、砺波センターについては9割、8割近くで、こちらの方が就職では高いという傾向になっています。

ニーズ調査（速報値）ですが、全事業所向けでデジタル人材の充足度は7割5分で足りなくなるだろうというところ。また、デジタル技術を活用して、昨今、広報や求人活動、あるいは販売をオンライン化、ネット販売にするという傾向がございまして、こういうことに取り組んでいるという事業者さん、あるいは今後取り組みたいというところが4割5分と、5割近くの事業者さんがそういうふうにご覧いただけます。

また、こうしたデジタルを活用した広報、求人等の業務に取り組む人材が足りているかどうかを聞いてございまして、こちら不足と今後不足を入れると66%に近い事業者さんが足りないと考えているというところでございます。

また受講者の方は、希望する職種で一般事務が38%と最も高くなってございまして。受講したい訓練について上位3つを挙げますと、こちらいずれもパソコンの事務関係というのが非常に高くなってございまして。あれば受けてみたいコースの中で、プログラミングが非常に高くなってございまして、その次にデジタル技術活用による広報、求人活動が28%と。また、DX・IT関連技術の使い方（ソフトウェアアプリ）等が25%近いというところで、こちら非常にニーズの高い中身

になっております。

見直しの方向性、一番右側ですが、今、本校、両センターでばらばらな科名。そんなにやっている中身は違うわけではないので、科名は統一をしたいと。コース制も廃止をすると。

ただ、情報化が進む社会で基礎的IT技術を活用できるように、カリキュラムをより充実したいと思っております、見直し内容として、科名をビジネス事務科にして、コースは今までどおりのものと。今までどおり、簿記会計、会計事務、パソコン操作、社会保険ですとか、そういうベーシックなものに加えて、SNSの活用の方法やソフトウェア、ネットワークの基礎、或いは情報セキュリティですとか、こういうIT関連技術を活用して色々現場でできるところを拡充したいと思っております。

この見直しの中身については、7ページ、8ページの科全てに共通になっております。

9ページ、資料3の関係の最後のページですが、介護サービスの関係になります。こちらは新川と砺波で実施しており、現状と課題は、入校率は55%或いは68%と、少し低いというところはありますが、基本的には横ばい傾向にあります。就職率は8割ほどで、比較的高い数字を維持しております。

真ん中のニーズ調査(速報値)について、事業者の方々向けですが、人材充足度で全ての職種で不足しているという結果が出ています。一番現場で作業される介護員の方が4割超と、非常に高い割合になっています。

採用希望年代も、介護員や主任介護員程度というところが非常に高くなっていますし、育成希望についても介護員等は4割超になっています。

また、DXの関連技術につきまして、例えば介護報酬業務システムを導入しているかというので、導入している事業者さんは非常に多い7割5分程度と。人は足りているというところは、6割程度は足りているというところになります。ただ、技専での育成希望も4割程度、DXを使える人材というのも育成希望がございます。

また、今、民間委託訓練でやっております実務者研修については、これが中止になるのは困るという事業者さんが3割程度ございます。

あと受講者の声として、就職したい業種としては医療・福祉が19%と最も高くなっています。

見直しの方向性としては、基本的には現行のまま継続したいと。ただ、受講促進に向けて広報を強化するという。また、DX関係についても関心が高いという結果が出ておりますし、介護記録作成等で現場の方でもパソコンが利用されているということで、パソコン・OAの基礎的な内容を追加してはどうかと思っております。

真ん中の見直し内容でございますが、今までどおりの初任者研修向けの知識習得に加え、パソコン・OAの基礎的な内容の習得と。こちらは新川、砺波ではちょうどパソコンの事務関係の科もございますので、その空き時間等を活用してそういうカリキュラムも組み込みたいと思っております。

すみません、少々長くなりまして恐縮ですが、以上が技術専門学院が直営でやっています科の見直しになりまして、最後に資料4というワードの一枚紙がございまして、こちらを御覧いただきたいのですが、民間委託訓練におけるデジタル人材の育成についてというペーパーでして、技術専門学院で実施する訓練のメニューを補いまして、離転職者向けの部分でデジタル人材の育成を強化するというので、民間教育訓練機関を活用した委託訓練を拡充したいと思っております。

もうこれは既に現行設定されておりますIT実践科（Webプログラミングコース）でして、訓練期間6か月になっていますが、先ほどと少々重複しますが、ニーズ調査結果で75%の事業所が、将来を含めてデジタル人材の不足を感じております。また求職者側のニーズで、プログラミングをやってみいたいというニーズが3割強で一番高いというところでしたので、このWebプログラミングコースについて、令和4年度から次のように改善したいと思っています。

現状は富山地区で20名1コースですが、3コースで55名に、約3倍弱に増やしたいと思っています。富山地区が20名×2コース、高岡地区が15名×1コースと。訓練生全員がITスキル標準レベル1以上を目指すコースとするとなっていて、目標資格としまして、基本情報技術者であったりORACLE認定Javaプログラマですとか、クリエイター能力認定試験ですとか、こういったものを取得してもらおう。

この後ろに、現在やっております委託訓練のモデルのカリキュラムを示しております、こちらは御参考でございます。

事務局からの御説明は以上であります。よろしく願いいたします。

#### ●議長

ありがとうございます。それでは、ただいまの訓練科見直し案等について、皆様から御意見、御質問等をいただきたいと思っております。1人3分程度でお願いいたします。では、順番にお話を伺いたいと思っております。

まず、お願いいたします。

#### ●委員

よろしくお願ひします。前任から代わりまして、大きな引継ぎ等もない中でこの資料を見させていただきましたので、非常に戸惑っております。

今日、御説明を伺ったというだけになってしまう部分が多いんですが、いろんな調査等も踏まえてこうなるんだということは実感をさせていただきました。

ただ、統合の関係の部分ですね。CADとかこういった部分、細かな部分は私も理解できない部分がありましたので、また今後少し確認をさせていただきながら知識を深めさせていただきたいと思っております。

今日は意見を言えるような状況じゃなかったもので、申し訳ないんですがこの程度にさせていただきたいと思っております。

#### ●議長

ありがとうございました。では、お願いいたします。

#### ●委員

私も資料をしっかりと読み込んできていないので、今の説明だけで質問させていただきたいと思っておりますが、金属科に関して資料3-3の部分で質問があります。

金属科のニーズ調査の事業者（ものづくり系）の回答の中で、全ての職種に対して不足しているという回答があるのですが、これは全体の回答だと思うんですけども、実際の質問が問2の

中で1から7までであるので、このおのおのに対しての回答を持っておられるかどうか聞きたいです。要は、機械設計担当者、F A機械設計・プログラミング、F A機械加工・組立てと個別に職種が分かれていますのですが、職種ごとにどういった回答が出ているか知りたくて、その回答によっては見直し方向も多少変えていかなくちゃいけないのかなと思ったものですから、もし今分かるようであれば教えてほしいですし、ないようでしたら別途で構いませんので、よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

#### ●議長

事務局、お願いいたします。

#### ●事務局

ものづくり関係につきましては、まず製品、部品の図面をCADにて作成している製造業の方と、あとNC機械による部材、部品等の製造、F A装置等の製作をしている事業所の方、それぞれに聞いておりました、人材の充足度ですけれども、こちらも作業員の方から、あとは主任作業員、工程管理責任者、設計担当者という形で、いろんな階層別に質問をさせていただいております。

基本的には、どの階層においても不足しているという事業所さんの方が多いという結果が出ておりました、特に若手の方ですとかそういったところで不足感が高いと。あと、設計担当なども結構足りていないというデータが出ておりますね。

そういう意味では、傾向的にそれほど大きな違いはそれぞれの職種で顕著かという、そういう訳でもなくて、基本的にはどの職種でも足りていない割合のほうが高いですし、工程管理も設計担当についても、これも5割程度になっていますので、それぞれの職種、同様に足りていないという結果かなと思っております。

すみません、お答えになっているかどうか分かりませんが。

#### ●委員

全体的にどの職種に関しても足りないという中でこの見直しの方向性が出ているんだと思いますが、金属加工に完全に特化したような形の見直しになっているので質問させていただきました。この見直しの方向性を出した理由は、何かあるんですか。

#### ●事務局

このものづくり系について聞いているのが、CAD/CAMですとかNC機械の人材が足りているかどうかというのを聞いておりました、そこの中でそういう人材が足りていないという結果が出ているものですから、この金属加工科については、現場の溶接技術にプラスして、CADを使った部分を強化するという方向性を、この調査結果を踏まえて出させていただいているというものになります。

#### ●委員

機械の例えば設計とか、組立も含む部分に、そういった面に関しての補強は特にここにはないということよろしいですか。

## ●事務局

金属加工という部分については、そこについては盛り込んではいないというところになります。ただ、普通課程のメカトロニクス科ですとかそういったところで、例えばF Aに対応するための訓練環境の強化ですとか、どうしても若年向けにはなりません。若者なのでそこまで高度な内容を一気にという訳ではないんですが、将来的にはそういうところも対応できるような人材を育成できるような形で、学卒者向けの部分の見直しを併せて行っているということになっております。

## ●委員

確かに学卒者向けの見直し案が離職者向けの方にもあったらいいなと思いました。今後というお話がありましたので、了解しました。ありがとうございます。

## ●議長

ありがとうございました。次は、お願いいたします。

## ●委員

本当にすばらしく見やすくまとめてくださって、ありがとうございます。ニーズ調査も速報値で出していただいて、すごく理解が深まりました。

何点か気づいたことをお伝えしたいと思います。

資料3-4で、エコ住宅リフォーム科の一番右側の見直しの方向性のところで、短期(6か月)のCADクラフト科というところがあります。こちらは建築CAD、NC加工機操作などと書いてありますが、本当にCADは色んなところで出てきますし、建築CADは建築CADでリフォームのときとかはすごく大切かなと思うんですけど、今、土木系のCADもすごくニーズがありまして、これから本当に県内の社会インフラもどんどん老朽化していく中で、土木系のCADをする人材というのは、どこの建設コンサルタントさんとかゼネコンさんとかも求められています。そういうところも入れていただければいいかなと思いました。

あと、資料3-7のOA事務科ですね。これからビジネス事務科になるということで、こちら全部まとめられてすっきりして、すごくいい見直しになっているかなと思います。

資格なんですけれども、資格とか取得も沢山やられていると思うんですが、今、会社で人を採用するときに見ているのが、ITパスポートを持っているかどうか結構重視しているんです。ITパスポートってすごく大学生とかでも受けるような資格なんですけど、満遍なく理解されているかどうかというのが分かるので、そういうのも検討されたいかがかなと思いました。

あと最後に、資料3-3のニーズ調査(速報値)で、技専を知らなかった方が5割いるという事実ですね。これは金属も環境エネルギーも書いてありますけれども、もったいないなと思うんですね。逆に言うと伸び代がいっぱいあるなと思います。

やっぱり皆さん、学校とか、もちろん色々なやり方でPRすることは大事だと思うのですが、例えばこの学科に行ってこれを勉強したら、こんな会社で働けて、お給料が幾らぐらいで、休みが例えば土日ちゃんと取れるとか、土日は取れないけどちゃんと年間休日が幾らぐらいあるとか、資格はどういうものが取れて、将来的にどういうキャリアプランになるのかというのをひもづけ

たPRというのをしていくと、よりみんなが具体的に考えられるかなと思いますので、PRを今からどんどんやっていくと思いますけれども、やり方というところでそういうものがあればいいかなと感じました。以上です。

●議長

事務局、お願いします。

●事務局

ありがとうございます。

まずCADのところ、土木系についてもCADのニーズは高いというお話がございました。

今、資料上、建築CADとなっていますが、土木も入れられないか、こちらで検討をさせていただきたいと思っております。

また、OA事務関係の資格としまして、資格についてはあまり記載をしていなかったところなので、今どういう資格を取っていて、今後の目標資格としてITパスポートというのも掲げられるのかどうかというの、今後ぜひ検討をさせていただきたいと思います。

技専が知られていないというところで、非常にごもつともな御指摘だと思っております、おっしゃるとおり、技専でどういうことができます、こういう訓練をやっていますというだけではなくて、どういうところに就職されて、将来的にこういう活躍の仕方、活躍の場があるんだという部分も併せて、将来像的な部分もPRできたら、より関心を持ってもらえるかな、或いはイメージも湧くかなと思いますので、そういう形でのパンフレットですとかホームページですとか、そういう周知というの、ぜひ前向きに検討させていただければと思っております。以上です。

●議長

ありがとうございます。今、1つ思いついたので、司会なんですけど、付け足してもよろしいでしょうか。

そこに学費の情報とかも載せると、こんなに学費、安いんですね。ただでしたっけ。

●事務局

離転職者は基本的にただです。

●議長

そうなんですよ。ただでこんなことを学べるんだということを、多分みんな知らないと思うんですよ。知っていたらやりたいと思うと思うので、ぜひ学費の情報もお願いします。

●事務局

承知いたしました。

●議長

ありがとうございます。では次、お願いいたします。

## ●委員

全体を通して非常にうまくまとめられていて、こんな言い方もなんですけど、本当に感心をしていたところなんですけど、少しお話とも被るんですけど、CADのところでは建築CADとCADクラフト科で、あまりCADは詳しくないのですが、建築CADはここだけ元の科の成り立ちを少し引きずっているのか、建築CADはどちらかというと建築の色が強いんだけど、CADクラフト科はある意味ゼネラルなというか、そういうだけじゃなくNCとかもみたいなニュアンスで、先ほど土木も入れた方がいいんじゃないかという意見もあったので、この3科で何をやるかは、何かもう少し整理の余地があるのかもしれないなど。

逆にCADクラフト科は、具体的なカリキュラムは分からないのですが、建築CADもやるしNC加工機の操作もやるしというので、どっちつかずにならないのかなとか、その辺が少しだけ気になったりはしています。これはあまり根拠のない不安ぐらいの感じで思っただけであればいいんですけど、それが整理できていればいいなと思っています。

あと、これも私が何度か会議で申し上げたことなんですけど、ビジネス事務科の部分はこういうふうに統一していただけて非常によかったなと思っています。似たようなことを別々の名前で色んなところでやっているというのは分かりづらかったので、先ほどから出ている広報の面でも、こういうふうにした方がすっきりしてやりやすいんじゃないかなと思っていますので、非常にいいと思います。それに、ITパスポートの話も出ていましたけど、そういったこともぜひ私も取り入れていただければいいなと思っています。

そういう観点でいうと、もちろんカリキュラムがぱんぱんなんでしょうけど、それだけじゃないんでしょうけど、情報系の拡充のところが16時間程度、2日分というのは、これが十分かどうか。これはカリキュラムの中身のレベルで、もう少しもしかすると増やさないと、せっかくの改編に合わせた、何もプログラミングをやれというわけじゃなくて、デジタル系のことを事務系の仕事の中で生かしていく基本的な知識として、社会人的な意味で身につけていくというところで、少し足りないかもしれないなというのを少々思いましたので、これもカリキュラム全体のバランスの中で見ていただければいいなと思います。

最後に、資料4の民間委託訓練におけるデジタル人材の育成についてなんですけど、これはかなり大幅に増やされるということなんですけど、このコースの修了者はどちらかというとベンダー的な方に行くイメージ、ユーザー企業よりはベンダーの方に行くイメージなのかなと少し思った一方で、要は現状でもそうなんですけど、実際、帯に短し襷に長しなところはないのかなと。つまり、6か月少しこういう訓練をしたからといって、ベンダーで採用とかというふうにも結びついていくものなのか。コースを増やしちゃって行く先がないみたいなことがないか。最後の部分だけが質問だと思っていただいて、それまではコメントだと思っていただければいいので、そこだけ少々心配なので教えてもらっていいですか。

## ●議長

事務局、お願いいたします。

## ●事務局

ありがとうございます。

まず、CADクラフト系が元の建築を引きずっているんじゃないかという御指摘でして、確かに我々の意図しているところは、委員御指摘のとおりゼネラルなものというのでイメージはしていますので、今の資料の書き方ですと、あまりゼネラルというよりは建築寄りというふうに見えるのかなと思いますので、少し記載ぶりですとか、あるいは中身としてどういうふうにやっていくのかも踏まえて、もう少し記載を検討させていただきたいと思っております。

また、OA事務の関係で16時間で2日というところで、御指摘がありましたとおり、例えばITパスポートの取得まで視野に入れたとき、この時間で本当に足りるのかどうかという議論もあると思いますので、もう少し拡充ができないかどうか検討させていただければと思っております。

民間委託訓練についてですが、今回大幅に拡充というところで、現状、学んだことに関連する就職、関連就職率というのが三、四割ほどというのが現状ではございます。そういう意味で、必ずしもいわゆるベンダー的な仕事ですとか開発的な仕事に行けている訳ではないというところはあるかなとは思っております。

今回ITスキルのレベル1以上を全員が目指すということも考えておきまして、現状、この資格の取得という意味でもなかなか芳しくない状態でもあったりするものですから、こういう資格の取得率というのも上げていきながら、学んだことに関連する関連就職率の向上にも努めていきたいと考えております。以上です。

## ●委員

そういう意味だと、やはり少々心配かなという気はします。このまま大きく数を増やしてしまっ、何を言いたいかという、増やすのがいけないという訳じゃなくて、内容的に、私が大学で色々教えていたり、もしくは大学でまさに就職の担当もしてまして、ベンダーさんの採用担当とお話している中で、何でも欲しいというところもある一方で、これだけをやって本当に通るレベルに6か月という中でできるのかなと思うと、また出口が違うデジタル人材みたいなものも足りないところは沢山ある中で、この中にも裏に社内IT技術者とか、色々そういう行き方がある気がするので、これも本当カリキュラムの内容次第なんですけど、プログラミングにすごく寄っている割に、何か少し足りないみたいな感じがしてしまうので、これは民間に委託されるので、委託の内容を含めて工夫されて、出口のところに関連するところにももう少し高く入るような形でやらないと、数が多くなる分少々不安だなという気がするので、検討していただければいいと思います。

## ●事務局

こちらは民間委託業者に委託しながらやっているものなので、こちらでも仕様を考えるときにそういう観点も入れながら、どうしたら関連就職率、今の領域にとどまらないで、もう少し広いところも視野に入れながら、どういったカリキュラムの充実ができりかということ、もう少し委託先に想定される場所等とも相談しながら検討したいと思っております。ありがとうございます。

●議長

ありがとうございます。次、お願いいたします。

●委員

説明を聞かせていただいて、私たちの学校でもそうなのですが、科の名前とか専攻の名前から学生たちがその内容をイメージするという部分は非常に大きいので、どんな科の名前にするかということは想像以上に入校の数に影響してくるんじゃないかなと考えています。そういう意味では、現行よりも再編後の名前のほうが非常に分かりやすくなったなと感じました。本当によく整理されているなという印象を持っています。

ただ、少々私が気になったのは、先ほどからも話題になっていますが、建築系のところですよ。

総合建築科と、建築CAD科と、CADクラフト科というので3つあるんですけども、このすみ分け、資料の3-4で見れば分かるんですけど、ここまで細かくすみ分けしなければいけないのかなと思いました。

総合建築科というのは木造建築一般とCAD。ここでもCADをやるんですよ。建築CAD科があって、そのCADにアルミ、鉄、プラスチックなどの加工ができるというところを加えてCADクラフトという名前がついています。ここら辺をもう少し整理されればどうかなという。細かくすればするほど、資料によれば入校率が低くなっているという状況の中で、ばらけてしまうという。なおさら入校率が低くなったりという結果にならないのかなと感じました。

もう一つは、砺波センターには訓練科が未設置なんですよ。そこに新しくCADクラフト科を新設しよう。それこそこの根拠は何なのかなと。ニーズ調査をされました。そのニーズ調査のどこを生かしてこの新設を考えられたのかなというのが少々疑問でした。

資料3-4の下に、新川センター及び砺波センターにこの科が設置されたら受講するかということで数字が上がっていますが、これは本当にニーズがあると見ていいのかどうなのか。先ほどの入校率が低い中で砺波に新設される根拠は何なのかなということが疑問でした。

あと広報的に、この後だと思うんですが、外部に訴えて訴求して入校者を集めようといったときには、育てたい人材像といいますか、どういう人材を育てようという目的があって、そのために入ればどんなことができるようになるかと。どんなカリキュラムを組んでいる。就職先はこういうところなんですよという流れをしっかりと打ち出してあげると、なおさら入校を考えている方には分かりやすくなるのかなと思います。以上です。

●議長

ありがとうございます。事務局、お願いします。

●事務局

ありがとうございます。

CAD関係の見直しの部分で、資料3-4の方向性の部分で、木造建築、建築CAD、CADクラフトのすみ分けというお話でありまして、他の委員からも御指摘をいただいておりますし、おっしゃるとおり、建築CAD科は建築寄り、CADクラフト科はもう少しゼネラルということで考えてはいるんですけども、一見分かりづらいというところですか、受講者にとってどう

なのかという御指摘かなと思いますので、もう少しすみ分けといいますか、どのような工夫ができるかというのを検討させていただければと思います。

もう一つ、砺波になぜかCADクラフト科という点については、資料3-5で、これはニーズ調査を色々抜粋しておりますので、こちらのところでまず事業者のニーズを上半分で整理してまして、土木・建設関係のところでDX関連のCADの技術の人材が不足しているという事業者さんが非常にどの職種でも高いというのと、事業者のものづくり・製造系のところにCAD/CAMを使う業務における人材充足度を聞いたところ、全ての職種で不足しておりますし、採用希望学歴については「学歴関係なく採用」が最も高く、技専での育成希望も高いというところから、まずCAD関係の土木・建設であったりものづくり、両方に共通してCAD関係の人材は足りていないという結果が出ていると思っております。

加えて、砺波センターにCAD関連科を設置するべきかどうかというのも、3割程度が製造・建築業でニーズが出ておりますし、逆の求職者側についても、あれば受けてみたいコースでCAD/CAM関連が2割5分程度、砺波センターに設置されたら受講するというのも3割程度、それぞれ建設業であればあるというところから、事業者、求職者双方の、まずCAD/CAMについてのニーズがあるかなと思ひまして、さらに新川、砺波に設置された場合に受講したいというニーズも一定程度あるというところで、呉西、呉東それぞれでCAD関係の人材が育成できるようにということで、今回提案させていただいたという経緯になっております。

最後、広報の関係でございますが、どのようなカリキュラムを組んで、どういう人材として育てたいか。就職先はどうかというようなお話。御指摘があったような内容かと思ひますので、お二人から同時にそういった広報面の御指摘をいただきましたので、より求職者に魅力的に映って、関心を持っていただけるような広報の仕方というのを、ぜひ今後やっていきたいと思っております。ありがとうございます。

## ●議長

ありがとうございます。

そうしましたら、お願いします。

## ●オブザーバー

まず感想なんですけど、短時間でこれだけ大きな再編のプランができたのはすごいなと思ひました。

それから、木工系の科を建築系に寄せたというのも、個人的にはいいのかなと。人材のニーズも多いでしょうから、ニーズに沿った形になるのかなと思ひました。

それと、新川センターがどっちかというところコース数が減ることになるのかなと思ひたので、人数的にはとんとんなのかもしれないけど、メニューが少し減っちゃうのかなと思ひたところでございます。

あとは中身なんですけど、3ページの資料3-3の金属系のところなんですけれども、一番上ですね。溶接と切削はいいんですけれども、そこに新たにCADを入れつつ、板金が入るのはどうなのかなと。CADと板金って少しジャンルが違うんですけど、溶接と板金でセットは分かるんですけど、溶接にCADの方向性を加えつつ板金というのが果たしてどうなのかなという感じが

しました。金属加工科と金属ものづくり基礎科ですよね。CADと板金の組合せはちょっと個人的にはどうなのかなと思ったところでございます。

それから、先ほどからあります4ページの建築系の建築CAD科、それからCADクラフト科ですけれども、こちらも建築CAD科でいいますと、建築CADにNC加工、これは金属系のNCCADのことなんですかね。木材系を使うのと、その辺、知識がないので分からないんですけども、建築CADとNC加工も少しジャンル違いなのかなと。

それと、下のCADクラフト科も、先ほどから意見があったんですが、建築CADとNC加工、木材だけでなくアルミ、鉄、プラスチックの加工もという、少し守備範囲が違うのかなと。担当する指導員のジャンルも変わってくるのかなというのと、受講生がこの名前が入ってきたときに、鉄、アルミ、プラスチックという部分の希望があるのかなという感じがしましたので、そこは御検討いただければよろしいかなと思いました。

それと、先ほどもお話があったんですが、確かに科名のインパクトというのは受講者にとっては大きいですが、ぱぱっと見ていて、3-2の電子情報/IoT科、これっていいなと正直思いました。メインの科名と、もう一つセカンドネームみたいな形で表現できるとすごくいいなと思いましたが、デジタルものづくりか、機械エンジニアかでどっちかにしようというのもあったけど、どっちかを括弧で入れちゃってもいいのかなと。科名は科名だけでも、サブタイトルみたいなものを常に表現できるというのが、利用者にとっては情報量としては多いのかなと感じたところでございます。以上でございます。

#### ●議長

ありがとうございます。事務局からお願いいたします。

#### ●事務局

ありがとうございます。

まずは金属関係のCADと板金がちょっと性質がとか、あるいはNC加工と建築CADは少し違うんじゃないかという御指摘がありましたので、中身を詳細に確認させていただいて、記載方法の問題もあるかもしれませんので、少し工夫といたしますか、内容の確認も含めて検討させていただければと思っております。

科名につきましては、今、終わろうとしていますが、そういう形でもう少し広い形にするというのも含めて、少し検討させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

#### ●議長

ありがとうございます。お願いいたします。

#### ●オブザーバー

学卒者訓練に絞ってお話しさせていただくと、新田知事が年頭に県内のものづくり団体合同の新年賀詞交歓会で挨拶されたときに、ものづくり立県である富山県の話がされました。機電工業会もヒト、モノ、カネ、情報の4つをキーワードにしています。

まず、現状、課題、それから速報値、ニーズ調査から案や見直しの方向性を組み立てていただき

ありがとうございます。

ニーズ調査等の根拠データ・エビデンスに基づいて、見直しの方向（案）や課題解決の取組が提案をした。育成すべき人材像をもう少ししっかりと示していただきたいと思います。デジタル化など4革（第4次産業革命）に対応できるようなデジタル人材等の人材育成を目指していることははっきり書かれているので分かったんですが、この科ではこういう人材、この科ではこういう人材、それぞれ具体的に人材育成像を示していただいて、それを実現、達成するためのカリキュラムがこういうふうに見直されるというのが、県民が理解しやすいように示していただきたいと思います。

柔軟なカリキュラムを編成すると言及されています。それを、根拠データ・エビデンスに基づいて、こういう人材を育成するためにはこういうカリキュラムが必要だという関係性をもう少し見せていただきたいと思います。

ここからは感想です。ICパスポート等ですが、達成度を向上させるためにはやはり訓練時間をもっと増やすとか、学生には大変かもしれませんが、最終的には企業や社会の評価を高めていくことに繋がっていくと思います。

あと、入校率を上げることや就職率を100%に近づけることは重要であると思います。

以前から申していますが、県内の高専を含めて7つの高等教育機関が「大学コンソーシアム富山」を構成していて、活動の半額を県が助成しています。県内の全高校生を対象にパンフレットを配布しています。この学校へ行くということが出来ます。進学したくなるようなパンフレットを作っている。そういうパンフレットに相当するような技専の広報をするべきです。あるいは、学生の進学先に関しては、専門学校などを加えらるとか、7つの高等教育機関にとらわれる必要はないと思います。

それから就職率に関しては、うちの学校は県内企業に卒業生の約9割就職させているんですけど、機械系は新川地区への就職が高いんです。富山市や呉西に半分以上が就職しますが、機械系に関しては新川地区の就職率が高いんです。どの企業をターゲットにしているのか具体的な戦略を立てると、もっと就職率は上がると思います。

それから、うちの場合は令和5年、6年に定員の見直しをかけます。専門課程を10名減らし、応用課程を10名増やします。企業や社会の求めている人材を育成するためには、訓練時間をしっかり確保して、短大よりも、4年制大学に相当するところを充実させようという方針に変わってきています。

すばらしい学生を育成するかというのは、訓練時間をしっかり確保するのがどうしても避けられないと私は思っています。

指導員の人たちの働きがい、生きがい、信念、精神、に支えられて、地域の将来を担うものづくり人材が育成されています。指導員の質を向上させられれば、学生、受講生の質も向上できて、企業や社会の評価が高まるだろうと思っているので、指導員の先生方の処遇の改善にも取り組むべきであると思います。

もっと具体的で分かりやすい入校生の募集案内等の広報が必要で、県の支援を技専にも取り組んでいただきたいと思っています。

## ●議長

事務局、お願いします。

## ●事務局

ありがとうございます。

まず、人材像を明確化して、それを踏まえてカリキュラムをというお話でございました。

最後の分かりやすい広報というところとも結びつくと思うんですが、求職者にとって分かりやすい魅力的なコースであるというのを対外的にきちんと示していくという意味でも、人材像というものをそれぞれの学科についてもぜひ今後取り組んでいきたいと思っております。

訓練時間について、今回、特に重視するという部分については、おっしゃるとおり訓練時間というのは十分確保した上でやらないと中途半端になりかねませんので、そこは配慮して取り組んでいきたいと思っております。

あと、指導員の方の働きがいですとか質の向上の話についても、指導員の方も外部の機関で最新の講習を受けていただいたり、そういう講習の質を高めるような取組に取り組んでいただいております。また処遇の向上についても、しっかりと対応していきたいと考えております。以上になります。

## ●議長

ありがとうございます。

最後に一言、私も申し上げてもよろしいでしょうか。すみません、時間が遅くなっているんですけれども。

学卒者訓練に関して、3つ目の電子情報というやつで、これは基本的に製造業の現場を前提にして置かれているプログラムです。例えばこの中にコースを分けて、学卒者でも製造業以外で、IT産業など向けのコースを作ったらいかがでしょうか。現状の電子情報コースは、製造業向けの情報、訓練ですよ。なので、例えば中にコースで、資料4みたいなコース（プログラミング）の学卒者向けのもっと充実したものを設置できたらいいのかなと思いました。

あとは、OA事務系の入学希望者は結構高いのですが、ニーズ調査でハイブリッド型の授業への希望が結構高かったと伺ったので、57%でしたっけ。なので、全部をハイブリッドにするのは難しいと思うんですけれど、できる範囲でハイブリッドも組み合わせる努力をすると、例えば子育て中の人とか介護中の人とかも参加しやすくなるのではないかと思った次第です。

あと、資料4の民間委託訓練なんですけれども、これももし6か月で短いのだんならば、さらにやる気のある人のためにさらに6か月とか。アドバンストのコースを選択できるようにしたよいのではないのでしょうか。あとは、プログラミング言語ごとにコースを選べるようにするとよいと思いました。これはコメントなので、お返事いただかなくて結構です。ありがとうございます。

では、これで皆様から御意見をいただいたんですけれども、もう時間も結構押して、さらに私がコメントしていた訳なんですけれども、もし何か一言おっしゃりたい方がいらっしゃいましたら、いらっしゃいますか。よろしいですかね。

そうしたら、もう時間も押しておりますので、もし何かおっしゃりたいことがありましたら、コメントで事務局までお寄せいただけたらと思います。

では、事務局にお返しいたします。

●事務局

会長、どうもありがとうございました。

それでは、事務局より事務連絡を申し上げます。本日の議事録については事務局で取りまとめ、委員の皆様の御発言の内容について、それぞれ御確認いただいた上で、富山県のウェブサイトに掲載をしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

それでは、これもちまして、令和3年度第3回富山県技術専門学院見直し検討部会を閉会いたします。皆様、お疲れさまでした。

— 了 —